

矢野耀大さんのお話の詳細

<心×行動=結果>について>

行動の結果はその時の心の状態に大きく影響を受けます。1つの行動をするとしても、心の状態が10であれば、その結果は10、心の状態が100であれば、その結果は100となります。何事にも取り組む時に心が良い状態であることが大切。・・・(途中省略)

<脳と心を最幸(最高)にする3つのポイントについて>

脳と心を良い状態にするために大切なことがあります。「自分には無理だ、あいつには無理だ」というような決めつけはしない。自分、そして相手の可能性を信じ切ることが大切。信じ切れば、時間はかかるかもしれないが予想や期待を上回る結果が出る人が多い。実際、青柳投手はコントロールが悪い投手でした。ゴロを取った後に1塁にボールを投げると暴投になることも頻繁にありました。そんな彼でも2年連続の最多勝投手となりました。

2つ目は、「ピンチはチャンス」と前向きに考えること。そう考えることで頑張ろうという意欲が高まる。意欲が高まるだけで良い結果が出やすくなるし頑張りが続くことができる。「ノーアウト満塁、ヒットを打たれたら点が入る。やばい、どうしよう。」と考えるのではなく、「ノーアウト満塁。これを押さえたら無茶苦茶かっこいい。燃えてきたー。」となる。

しかし頑張りが続けたとしてもどこかのタイミングで限界を感じる時がやってくる。その時に「自分のため」にやっている段階では、「もういっか。」という感じで止めてしまう。「誰かを喜ばせたい、というように誰かのために」と考えてやっている段階では、「あと1回、もうあと1回」という感じで不思議なことにもう少し頑張ってしまう。その積み重ねが成長につながる。これが3つ目のポイントです。・・・(途中省略)

<脳と心を最幸(最高)にするプラスαについて>

これらに加えて「感謝」が加わると効果が絶大です。ここで言う感謝は良いことが起こった時にする感謝の気持ちではありません。当たり前なのに感謝する気持ちです。僕たちはコロナの影響で観客がいなくて試合をしたこともあります。その時、改めて感じました。甲子園でたくさんの観客に応援してもらえることがこんなにも有難いことだったんだと。

私が就任した1年目の2019年の9月20日。残り6試合の段階で首位巨人とは9ゲーム差、3位広島とも3ゲーム差の5位でした。この時点では優勝は当然のことながら3位に入りクライマックスシリーズへの出場も難しい状態でした。選手をはじめチームの雰囲気はとても暗かったです。しかし自分は選手たちには残りの6試合を精一杯力の限り頑張りたいと感じていました。そこで、私はミーティングを開きました。「みんなは子どもの頃、将来プロ野球の世界で野球をしたいと思ったはずだ。俺たちはプロ野球の世界で野球をできている、俺たちは子どもの時の「夢」の中で生きている。残りの6試合、その喜びを感じ感謝の気持ちを大切に戦っていかうじゃないか。」・・・(途中省略) 選手たちは期待に応えて全力で頑張ってくれました。私たちは、残り6試合を6連勝で飾り、なんと3位にも入ることができ、クライマックスシーズンではファーストステージを勝ち進むことができました。残念ながらファイナルステージでは負けてしまいましたが、プロ野球の世界で野球をできていること(今の自分たちにとっては当たり前なこと)に感謝することを、①可能性を信じ切る、②ピンチはチャンスと考える、③誰かのために頑張る の3つのポイントに加えることで奇跡を起こしました。

(次の右面は「私は幸せだ」という人、「私は不幸だ」という人のそれぞれの共通点について紹介します。)

「私は幸せだ」という人、「私は不幸だ」という人のそれぞれの共通点

<子どもへの思い・期待。それは何のため？>

保護者の皆さんは、子どもさんに、「勉強頑張れ」、「スポーツを頑張れ」、「好きなことを頑張れ」等、言うことがあると思います。言葉に出すことはなくても、心の中で思っていることがあると思います。それらは一体何のために子どもに言ったり、自分の心の中で思ったりするのでしょうか？ きっと何のために、何のために、・・・と突き詰めていくと最終的には「うちの子には幸せになって欲しい。」という結論にたどり着くのではないのでしょうか。

有名進学塾でカリスマ講師と呼ばれ、絶大な信頼を得ていた木下晴弘さん(現在は株式会社アビリティートレーニング社の代表取締役)が見出した、「私は幸せだ」という人、「私は不幸だ」という人のそれぞれの共通点について紹介します。

<「私は幸せだ」という人の共通点について>

木下さんは、「私は幸せだ」という人の共通点を見つけたいと考え、かつての教え子に片っ端から電話をして、「今、あなたは幸せですか？」と聞いたそうです。その中で「私は幸せです」と答える人の共通点を見つけたのです。

「私は幸せだ」と答える人の共通点を、「学歴かな？」と考える人がいるかもしれませんが、そうではないようです。同じ高校、同じ大学、同じ就職先にいても幸せと答える人がいれば、不幸だと答える人がいるそうです。「私は幸せです」と答える人の共通点は、「他の人を喜ばせることに、自分自身が喜びを感じることができていること」だそうです。逆に「私が不幸だ」という人の共通点も見つけてしまったそうです。それは「自分のことしか考えていない」だそうです。

「働く目的」、「働く目的を小学生が考えることの大切さ」

<働くのは何のため？>

「人の役に立つ、人を喜ばせる」については、「働く」ことが挙げられます。仕事の大切さ、リーダーの在り方について語るとこれ以上の方はいないと言われるカリスマ講演家、福島正伸さん(アントレナージュ代表取締役)のお話を紹介します。

働くことについては、すべての仕事は世の中に役に立っており、どの仕事にも価値があります。仕事には、面白い仕事もつまらない仕事もあります。仕事にかかわる人の姿勢が仕事を面白くしたり、つまらなくしたりしているにすぎないのです。

夢をもつと、すべての仕事が素晴らしい仕事に変わります。どんな仕事にも、感動があります。感動を得るためには、仕事の意味に気がつくこと、もし気がつかなければ仕事の意味を作り出せばいいのです。そして、仕事は自分の生き様を示すものにもなり得ます。

将来人の役に立って、喜んでもらえて、元気や感動をプレゼントできる人は人を輝かせるし、その結果として自分自身も輝かせることができます。それは幸せな状態です。

<働く目的を小学生が考えることの大切さ>

小学生にとって、働くことはずっと先のことで関係がないことのように思えます。しかし、小学生時代からじっくりと時間をかけて育てていくべき大切なものがたくさんあります。仕事をする上で大切なのは、その仕事に意義を見出す、意味を作り出すことです。それは、仕事に就いて初めてするものではありません。学校での勉強、委員や係の仕事、掃除や給食の当番活動、お互いの合意領域を見出すまで話し合うこと等、意義を見出すことはたくさんあります。それができれば幸せな人生を送ることができる人に育つはずです。